

# 自律的・統制的動機づけに対する目標設定要因の影響

施設名／所属：大東文化大学／経営学部経営学科

発表者：渡邊直人

共同研究者：荻原啓佑（早稲田大学／商学学術院）

## I はじめに

わが国医療組織では、BSC が普及することで、財務目標と非財務目標の両方が、医療従事者に課されるようになってきた。複数目標を設定することで、個人の機会主義的な行動などを抑制することが期待される。既存研究のなかでは、目標達成への動機づけが複数目標の達成に影響を及ぼすことが明らかにされている。しかし、目標達成への動機づけに影響を及ぼす要因の検討は進んでいない。

## II 目的

本研究は、目標達成への動機づけに影響を及ぼしうる要因として目標設定要因に焦点を当て、両者の関係性を探索的に検討する。動機づけは、心理学における自己決定理論を援用し、自律的動機づけと統制的動機づけの両面から検討する。また、目標設定要因においては目標設定質問票を援用する（Kwan et al., 2013）。

## III 研究方法

本研究は、複数目標を課されている医療従事者（医師および看護師を対象）のデータを収集するために、ウェブ調査を実施した。最終的な調査概要は、配布数 832 件のうち、有効回答数は 620 件（有効回答率 74.52%）であった。このうち、複数目標が回答者個人に課されていると回答し、その他の項目に欠損値のない 403 件を分析対象とした。本分析では、まず目標設定要因に対して探索的因子分析を行った。その後、自律的・統制的動機づけを従属変数、目標設定

要因を独立変数とした重回帰分析を行った。

## IV 結果

探索的因子分析の結果、目標設定要因は 5 つの要因から構成された。重回帰分析の結果、自律的動機づけに対しては、物的報酬、目標の具体性、および目標の困難度が正の影響を及ぼしていた。統制的動機づけは、信頼性の問題から外的動機づけと取り入れ的動機づけにわけて分析を行った。外的動機づけに対しては、物的報酬が負の影響を、目標の逆機能および目標の困難度が正の影響を及ぼしていた。取り入れ的動機づけに対しては、目標の逆機能のみが正の影響を及ぼしていた。

## V 考察と結論

自律的動機づけを高めるためには、具体的に困難な目標を課し、目標と物的報酬を結びつけることが有効である。他方、外的動機づけおよび取り入れ的動機づけを低下させるためには、目標と物的報酬とを結びつけ、目標の逆機能を発生させない目標設定環境づくりが有効であるといえる。

## 参考文献

Kwan, H. K., Lee, C., Wright, P. L., & Hui, C. (2013) Re-examining the Goal-Setting Questionnaire. In Locke, E. A., & Latham, G. P. (Eds.), *New Developments in Goal Setting and Task Performance*. (pp. 583–600). New York, NY: Routledge.